

平成 2 6 年度病虫害発生予報第 1 号

平成 2 6 年 4 月 3 日
鳥取県病虫害防除所

予報の概要

区 分	農 作 物 名	病 害 虫 名	発生時期	予想発生量
普通作物	イ ネ	苗立枯病 ばか苗病 イネシンガレセンチュウ	- 平 年 並 平 年 並	平 年 並 平 年 並 少 な い
	オオムギ	赤かび病 うどんこ病 網斑病	早 い - -	平 年 並 平 年 並 平 年 並
果 樹	ナ シ	黒斑病 黒星病 赤星病 ハダニ類 カメムシ類	やや早い やや早い やや早い やや早い やや早い	平 年 並 平 年 並 平 年 並 平 年 並 やや多い
野 菜	ラッキョウ	灰色かび病	やや早い	平 年 並
	スイカ、メロン、 タバコ	アブラムシ類	平 年 並	平 年 並

気象予報（抜粋）

1 か月予報（3 月 2 9 日～4 月 2 8 日：3 月 2 7 日、広島地方气象台発表）

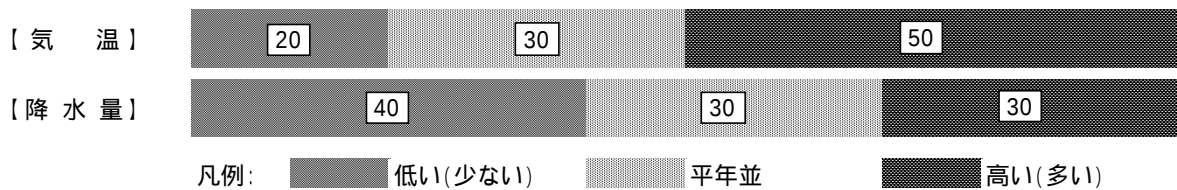
向こう 1 か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

天気は数日の周期で変わるでしょう。平年と同様に晴れの日が多い見込みです。

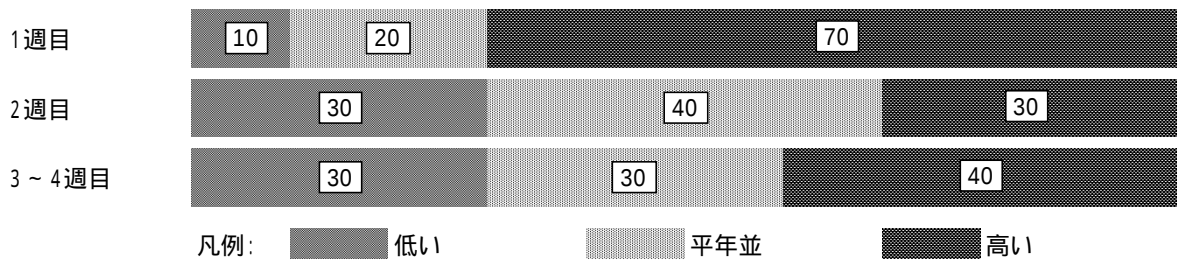
向こう 1 か月の平均気温は、高い確率 5 0 % です。

週別の気温は、1 週目は、高い確率 7 0 % です。

< 向こう 1 か月の気温、降水量の各階級の確率 (%) >



< 気温経過の各階級の確率 (%) >



普通作物

〔イ ネ〕

1 苗立枯病

(1) 予報の内容

発生地域 県内全域
発生量 平年並

(2) 予報の根拠

- ア 苗立枯病の予防防除が広く普及している。
イ 向こう1か月の気象予報から発生量は平年並と予想される。

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 発病後の防除は困難であるため、予防防除を徹底する。
イ 育苗環境を清潔に保ち、育苗中の温度管理及び水管理に注意する。
ウ ムレ苗が発生した場合には、タチガレエースM液剤の500～1,000倍液又はタチガレン液剤の500～1,000倍液を箱当たり0.5リットルかん注し、夜間の保温と昼間の遮光に努め、苗の回復を図る。移植可能であれば、早めに本田に移植する。

2 ばか苗病

(1) 予報の内容

発生地域 県内全域
発生時期 平年並(育苗期)
発生量 平年並

(2) 予報の根拠

前年の発生は平年並であったため、本年用種子の保菌率は平年並と推測される。

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 前年の発生ほ場から採取した籾は、種子として使用しない。
イ 塩水選及び種子消毒を徹底する。
ウ 温湯種子消毒にあたっては、消毒時間、温度などを厳守する。消毒後の種子を保管する場合には、種子を十分に乾燥させ、清潔な冷暗所に保管する。浸種を行う場合には、必ず水道水を使用し、適宜、水の交換を行う。
エ 薬剤による種子消毒(低濃度長時間浸漬)にあたっては、薬液がよく浸透するように網袋にゆとりを持たせる。また、薬液の温度が10℃以下にならないように注意する。消毒後の浸種は停滞水中で行い、最初の3日間は水の交換は行わない。水温が高い場合など酸素不足になるおそれがあるときは、静かに換水する。なお、薬剤については、病虫害防除指針などを参考にする。

3 イネシンガレセンチュウ

(1) 予報の内容

発生時期 平年並
発生量 少ない

(2) 予報の根拠

前年の本種による葉先枯れ症状の発生は少なかったため、汚染籾率は低いものと推測される。

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 前年の発生ほ場から採取した籾は、種子として使用しない。
- イ 塩水選及び種子消毒を徹底する。
- ウ 温湯種子消毒については、ばか苗病に準じる。
- エ 薬剤による種子消毒（低濃度長時間浸漬）の場合、ばか苗病防除薬剤と本種防除薬剤の混用により同時防除が可能であるが、各薬剤の使用濃度が異なるので注意する。なお、薬剤については、病虫害防除指針などを参考にする。

〔オオムギ〕

1 赤かび病

(1) 予報の内容

発生地域	県内全域
発生時期	早 い
発生量	平 年 並

(2) 予報の根拠

- ア 二条オオムギ、六条オオムギとも出穂期は早いと予想されている。
- イ 向こう1か月の気象予報から、発生量は平年並と予想される。

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 六条オオムギは、二条オオムギに比べて本病が発生しやすいので注意する。
- イ 発病後の防除は困難であるため、病虫害防除指針などを参考にして薬剤による予防防除を行う。防除適期は、二条オオムギでは穂揃い期の10日後ころ、六条オオムギでは開花を始めた時期～開花期、及びその7～10日後である。

2 うどんこ病

(1) 予報の内容

発生地域	県内全域
発生量	平 年 並

(2) 予報の根拠

これまでの気象推移及び向こう1か月の気象予報から、発生量は平年並と予想される。

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 葉色が濃い過繁茂のほ場では、多発生の恐れがあるので注意する。
- イ 発生がみられる場合には、病虫害防除指針などを参考にして薬剤による防除を行う。

3 網斑病

(1) 予報の内容

発生地域	県内全域
発生量	平 年 並

(2) 予報の根拠

これまでの気象推移及び向こう1か月の気象予報から、発生量は平年並と予想される。

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 葉色が濃い過繁茂のほ場では、多発生する恐れがあるので注意する。

イ 発生がみられる場合には、病虫害防除指針などを参考にして薬剤による防除を行う。

果 樹

〔ナ シ〕

1 黒斑病

(1) 予報の内容

発生時期 やや早い

発生量 平年並

(2) 予報の根拠

ア 平成25年12月上旬に行った越冬菌密度調査の結果、短果枝の病芽率は平年と比べてやや低かった。また、一年枝上の枝病斑数はほぼ平年並であった。病枝率については、調査園全体の平均値は平年と比べてやや低かったが、一部で病枝率の高い園が認められた。

イ ナシの生育は平年と比較してやや早い。

ウ 向こう1か月の気象予報から発生時期はやや早く、発生量は平年並と予想される。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 開花前～人工交配終了後に、伝染源となる病芽の除去を徹底する。

イ 開花期に病原菌が雌しべに侵入することがあるので、開花前～人工交配直後の薬剤防除を徹底する。

ウ 薬剤は開花始めにチウラム水和剤（トレノックスフロアブル又はチオノックフロアブル）500倍液など、人工交配終了後にフロンサイドSC2，000倍液またはベルコートフロアブル1，500倍液など、落花期に有機銅水和剤（キノンドーフロアブル又はドキリンフロアブル）1，000倍液などを散布する。

2 黒星病

(1) 予報の内容

発生時期 やや早い

発生量 平年並

(2) 予報の根拠

ア ナシ園における越冬病芽調査の結果によると、腋花芽の病芽率はほぼ平年並であった。

イ ナシの生育は平年と比較してやや早い。

ウ 向こう1か月の気象予報から発生時期はやや早く、発生量は平年並と予想される。

(3) 防除上注意すべき事項

ア りん片の脱落の悪い腋花芽は芽基部病斑を形成しやすく、本病の伝染源となるので、これらを開花始め～落花期に見回って切り取っておく。

イ 開花期に降雨が続くと多発しやすいので、開花前～落花期の防除を徹底する。

ウ 薬剤は、開花始めにアンビルフロアブル 1, 500 倍液など、落花期に E B I 剤（スコア顆粒水和剤、オンリーワンフロアブルなど）4, 000 倍とチウム水和剤（トレノックスフロアブル又はチオノックフロアブル）500 倍の混用液などを散布する。

3 赤星病

（1）予報の内容

発生時期 やや早い

発生量 平年並

（2）予報の根拠

ア 県予察ほ場のビャクシン上における冬孢子堆の形成量は、ほぼ平年並であった。

イ ナシの生育は平年と比較してやや早い。

ウ 向こう 1 か月の気象予報から発生時期はやや早く、発生量は平年並と予想される。

（3）防除上注意すべき事項

ア 果樹園の近くにビャクシン類が植栽され、4 月上～下旬に雨が多い場合、発病しやすくなる。

イ 近年、生け垣などにビャクシン類が植栽されている地域では、本病の発生がやや目立っている。

ウ 冬孢子堆の膨潤と小生子の飛散最盛期は、例年、満開前後の降雨直後となるので、この時期の防除を徹底する。

エ 薬剤は開花始めにアンビルフロアブル 1, 500 倍液など、落花期に E B I 剤（スコア顆粒水和剤、オンリーワンフロアブルなど）4, 000 倍とチウム水和剤（トレノックスフロアブル又はチオノックフロアブル）500 倍との混用液などを散布する。

オ 5 月以降に葉の発病がみられるときは、E B I 剤（スコア顆粒水和剤 4, 000 倍液、オンリーワンフロアブル 4, 000 倍液、アンビルフロアブル 1, 500 倍液など）を追加散布する。

4 ハダニ類

（1）予報の内容

発生時期 やや早い

発生量 平年並

（2）予報の根拠

ア 県内巡回調査園におけるハダニ類の越冬密度はやや少なかったものの、現地では平成 25 年秋期にカンザワハダニの発生密度が高い園がみられた。

イ ナシの生育は平年と比較してやや早い。

ウ 向こう 1 か月の気象予報では、気温は高いと見込まれている。

（3）防除上注意すべき事項

蕾や葉にハダニ類の発生が認められた場合は、開花始めまでにカネマイトフロアブル 1, 500 倍液などを単用で、薬液が葉裏によくかかるように丁寧に散布する。

5 カメムシ類

(1) 予報の内容

発生時期 やや早い

発生量 やや多い

(2) 予報の根拠

ア 越冬世代にあたる平成25年の8月以降、予察灯における誘殺数がやや多く、越冬密度はやや高いものと予想される。

イ ナシの生育は平年と比較してやや早い。

ウ 向こう1か月の気象予報では、気温は高いと見込まれている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 山間地及び民家近くの果樹園で例年発生が認められる園では、春期の被害が予想されるため、成虫の飛来を注意して観察する。

イ ナシ園への飛来が認められた場合は、直ちにジノテフラン水溶剤（アルバリン顆粒水溶剤又はスタークル顆粒水溶剤）2,000倍液などを追加散布する。

野 菜

〔 ラッキョウ 〕

1 灰色かび病

(1) 予報の内容

発生時期 やや早い

発生量 平年並

(2) 予報の根拠

ア 本病の初発生時期はやや早く、3月中旬頃であった。

イ 3月下旬現在、現地調査ほ場における発生量は県中部、県東部共に平年並である。

ウ 本病は4月に高温多雨で、5月に低温多雨の条件で発生が増加しやすい。向こう1か月の気象予報から、発生量は平年並と予想される。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 5月上旬まで、ロブラール水和剤1,000倍液、カンタスドライフロアブル1,500倍液、ベルコートフロアブル1,000倍液、フロンサイド水和剤2,000倍液、セイビアーフロアブル20の1,000倍液、ダコニール1000の1,000倍液などを輪番で散布する。

イ 降雨後には、枯れた葉の病斑上に多数の分生子を形成するので、降雨後の防除を徹底する。

ウ 茎葉が過繁茂となったラッキョウは、株元に薬液がかかりにくい状態となっているので、丁寧に散布する。

〔 スイカ・メロン・タバコ 〕

1 アブラムシ類

(1) 予報の内容

発生時期 平 年 並
発生量 平 年 並

(2) 予報の根拠

ア 県予察ほ場（東伯郡北栄町、露地ほ場）における黄色水盤への有翅虫の初飛来は、4月1日現在確認されていない。

イ 向こう1か月の気象予報から、発生時期及び発生量は平年並であると予想される。

(3) 防除上注意すべき事項

ア ハウスの換気部分や出入口には寒冷紗被覆を行い、アブラムシ類の侵入防止に努める。

イ 葉裏を注意して観察し、初期防除を徹底する。

ウ スイカのハウス栽培では交配前にミツバチへの影響のないチェス顆粒水和剤5,000倍液を散布し、トンネル栽培ではつる引き誘引時期にチェス顆粒水和剤5,000倍液、交配前にバリアード顆粒水和剤4,000倍液を散布する。

エ メロンでは、チェス顆粒水和剤5,000倍液、バリアード顆粒水和剤4,000倍、モスピラン顆粒水溶剤8,000倍液などを散布する。

オ タバコの近隣にジャガイモを栽培している場合は、タバコ黄斑えそ病の伝染源となるので、掘り残しイモをすべて除去する。また、ジャガイモやタバコを透明寒冷紗により被覆栽培するなどして本病の伝染を防ぐ。

[おしらせ]

農薬の使用に当たっては、農薬使用基準を遵守するとともに、周辺への飛散には十分注意しましょう。

農薬の詳しい登録内容は、独立行政法人 農林水産消費安全技術センターの「農薬登録情報検索システム」から検索できます。(<http://www.famic.go.jp/>)

なお、農薬の使用や防除指導等に際しては、農薬のラベルを必ず御確認ください。

< 鳥取県病虫害防除所ホームページ >

アドレス <http://www.jppn.ne.jp/tottori/>

病虫害発生予察情報、フェロモントラップ調査結果（ナシのシンクイムシ類）などの参考情報、病虫害の診断方法などの情報をお知らせしていますので、ご利用下さい。

< お問い合わせ >

普通作物関係：〒680-1142 鳥取市橋本 260

鳥取県病虫害防除所

（TEL：0857-53-1345、E-mail：boujyot@titan.ocn.ne.jp）

もしくは

鳥取県農業試験場環境研究室

（TEL：0857-53-0721、FAX：0857-53-0723）

果樹・野菜・花き関係

〒689-2221 東伯郡北栄町由良宿 2048

鳥取県園芸試験場環境研究室

（TEL：0858-37-4211、FAX：0858-37-4822）

予報第2号の発表は、4月24日（木）の予定です。